

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792400166		
法人名	社会福祉法人 松樹会		
事業所名	たんぽぽ田口		
所在地	枚方市交北2丁目8-10		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H23年10月1日にオープンした施設で、建物は新しく綺麗で、ゆとりのある建て方をしており、それぞれの入居者が好きな場所でくつろいで頂けるスペースも設けている。田園風景豊かな環境で、神社や学校も近く、恵まれた環境の中に立地。同法人の特養が隣接地にあり、医療や催事などあらゆる面で連携を図り、入居者様の生活の質の向上に繋げている。母体には(医)みどり会 中村病院があり週に1度の看護師の訪問や緊急時の受け入れなど、健康管理の面でも充実している。看護師および心理療法士による認知症進行を抑制するためのリハビリも行っており、週3回、回想法、作業療法、筋力運動を積極的に行っている。スタッフは法人の基本理念に従い、入居者様の人間性や尊厳を尊重し、個々の願いに応じたサービスや環境を提供できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してようやく1年が経過して、順調に入居が進み、職員体制も合わせて充実し、運営体制の整備が行われつつある段階である。殆どが新規に採用された職員であるが、管理者やリーダーを中心に、チームワークを大切にされたケアに向けて、一丸となって取り組んでいる。利用者の家族も職員の努力を評価して「大変訪問しやすい事業所である」、「すべての職員がいきいきとしている」、「何事にもよく相談のってくれる」等の家族意見も多くある。更に、職員相互の介護スキルや対応力を高めることで、利用者や家族の満足度の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を、目に付く場所に掲示してあり朝礼の際には唱和をしている	事務所内に理念を掲示し、職員の引継ぎミーティング時に理念を全員で唱和し、事業所の介護の心を確認してから仕事を始めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域代表の方に運営推進会議に参加して頂き地域との交流に努めている。 また近くの神社に散歩に出たり、近隣の支援センターでの催し物に出かけたり交流に努めている	開設して1年であるが近隣住民や地域の暮らしの中で自然と交流を深めるように、散歩や行事を通して、日常的に接触するように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア専門士のいる施設として、貢献できる術があることを地域の方に伝えようと共、大阪府認知症対策協カリーダの認定をし貢献できる術があることを市社協の職員に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 例・近隣神社の祭りへの参加など	自治会長や民生委員が地域の代表として参加し、2ヶ月に1回開催している。地域との交流について意見交換を行い、事業所の運営に活かすように努めている。	運営推進会議の項目や内容について、家族の参加を更に促したり、職員の取り組み状況を報告するなど、積極的な活用が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行い、入居者の声を聞いてもらうようにしている。 包括支援センター主催の地域ケア会議などにはこちらから出向き積極的に協力関係を築くよう努めている	地域ケア会議に参加して行政との情報交換を行っている。利用者個別の事例について相談することが出来るように行政の関係部署とのつながりを確保している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵の施錠、言葉による拘束なども、身体拘束になることを理解のうえ、拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束が利用者にも与える影響を研修及び日常のケアを通して理解した上で利用者に対応している。帰宅願望のある利用者には、職員が早めに察して、一緒に外へ出るなどの対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にしてはならないということを理解し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する問い合わせがあれば、活用できるよう支援できる準備がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、不明な点などは丁寧に聞き取るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様やご家族様にも参加頂き、意見を頂いている。頂いた意見は前向きに改善するよう努めている。また毎月のお便りでも、気軽に意見を述べてもらえるようお伝えしている。	家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。職員も家族と親しく接して、意見や要望が言いやすい、あるいは行きやすい事業所になるよう雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションや、スタッフ会議などの中で意見を述べる機会を設けたり、職員面談の場を設け、率直な意見の交換を反映させるよう努めている。	開設して1年経過し、ようやく職員が揃った段階であるが、職員のチームワークがまとまるように、全職員が努力している様子がうかがえる。スタッフ会議でも職員からの提案や意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は経営会議や伺い書という形で、現場の意見を吸い上げるよう努めている。法人はキャリアパスの制度を設け、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修に行く機会を設けている。また、日々のケアの中で、その都度、指導・伝達を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流会に参加し、つながりを持つ機会を設け、サービスの質の向上に繋がる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や面談での聞き取りや、関係者からの情報提供で、本人の困りごとや不安なことを把握し、安心に繋げていけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際や、入居前の面談で丁寧に聞き取りを行い、質問には丁寧に答え、安心に繋がるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で、ご本人様や家族様の希望や課題を聞き取り、その時必要な課題を支援できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩に「学び、敬う」という姿勢を持ち暮らしを共にする者として接している。 出来る事はして頂き、わからないことは教えていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の心情・事情も汲み取るようにしながら、連携を図り、共に支えるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙、電話など要望があれば、対応し支援している。 また、ご家族様の協力も得ながら馴染みの場所への参加の支援も行っている。	入所の段階で本人の生活暦や人間関係、社会とのつながりをヒヤリングして、入所後も以前と同じような生活習慣が継続できるように、家族の要望を聞きながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が助け合ったり、出来る事をできる人が行う関係を大切にしている。 職員が会話の仲介役となり馴染みの関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても、病院への情報提供を含め、今後のフォローができるよう支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご本人やご家族様からの意向確認を行うようにしている。確認が困難な場合は利用者の視点に立って話し合いをするようにしている。	利用者の事業所での暮らし方、過ごし方について、本人の思いや家族の意向を聞き、希望に沿うような対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にはご家族様に、これまでの暮らしに関する事柄を細かく記入していただき、生活歴や環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は支援記録や観察表の記録、また日々の申し送りや、職員間の情報交換を行うことにより、1日の過ごし方や精神状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中での気づきをケアカンファレンスや、申し送りの中でのミニカンファで意見や工夫を出し合い検討している。	本人の希望や家族の意向を聞き、かかりつけ医や関係者の意見を参考にしてケアプランを作成している。定期的カンファレンスを行って職員が状況を把握した上で、意見を出し合ってプランの見直しに反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテへ日々の様子やケアの内容を記録し、職員間での情報共有に活用し、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調管理のための内科往診や、歯科往診、認知症進行予防のための訪問看護指導(リハビリ)などを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の支援センターの催物に参加させて頂くなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご本人様・ご家族様の意向を大切に、継続的な受診ができる様支援している。受診の際には情報提供を行い、適切な医療が提供されるよう支援している	以前からのかかりつけ医による受信を希望される場合は、優先して継続受診を支援している。家族は系列の病院等による医療支援体制への安心感、信頼感を持っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問のある看護師には、日々の気付きを伝え相談できるようにしている。訪問看護師は必要に応じて主治医へ相談したり、指示を出したりしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院へ出向くなどし、密な情報提供に努めている。退院の際も病院と連携を図り、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針については契約時に説明すると共に、実際にその状態になられたときは、家族様との話し合いを設け、意向に沿ったケアを出来るよう支援している。	事業所は重度化した時の対応指針を入所時に説明し、同意を得ている。対応が必要になった時点で、再度家族と相談して、意向に沿うような対応を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所には緊急時の対応マニュアルを常備し、すぐに対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行うようにしている	防災設備等の整備は出来ている。消防署の指導を得ながら避難訓練を行うと共に、運営推進会議では防災や安全に関する意見交換を行って、災害時の近隣の支援協力を要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた対応を心がけ、それを実践している。特に、排泄・入浴・更衣などはプライバシーの保護に努めている	基本理念にも表現されているが、職員は利用者個人の、人間性や尊厳への尊重を基本とした対応を行っている。職員の言葉使いは優しく、思いやりに満ちた表現になっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築き、感情や思いを表出できるよう努めている。また場合によっては選択肢を用意するなどして自己決定しやすい工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日課的なものは出来るだけなくし、個々のペースで過ごして頂いている。ラジオ体操など内容によっては声掛けをして参加頂くようにしている。但し、無理強いはいしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容の実践。衣類の選択や着こなしを支援する。月に一度、訪問理美容の機会を提供している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と一緒に食事を摂るようにしている。又個々に応じた食事形態にすることで食べ易くし、食の細かい方にも声掛けを行い、ゆっくりと食べて頂くようにしている。可能な方には準備など手伝いもして頂く。	利用者と職員と一緒に食事する家庭的な雰囲気です。食風景であった。職員は利用者の残存能力を活かして、準備や後片付けへの参加を促している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量を把握・記録し、それぞれにあった食生活への支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、個々のレベルに合わせた口腔ケアへの支援を行っている。食後の義歯の確認と、就寝前の義歯の消毒も合わせて行っている。必要に応じて歯科医との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄の失敗は尊厳を損なう重要な事項であることを理解し、個々の排泄パターンを把握することに努め、それぞれに合った排泄への支援を行っている	利用者個々の排泄習慣やパターンを把握して、トイレでの自立した排泄習慣の維持継続を目標にして支援している。トイレ誘導時の声かけも適切な対応であった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の確認や、お腹の貼り具合の確認をし把握に努めている。個々の排泄状況によって、服薬調整や水分強化など支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の曜日は決まっているが、それ以外に入りたいと希望があった際は入浴して頂くようにしている。入浴中に音楽をかけたり、室温に配慮したりと癒しの空間を提供できるよう支援している	利用者ごとの入浴予定日を決めているが、その日の体調や気分を優先して、臨機応変に日にちを変更したり、清拭、シャワー欲等に切り替えている。ゆっくりと落ち着いた入浴が出来るように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のそのときの身体の状態に応じて、日中の臥床時間を作るなど支援している。夜間もそれぞれに合った室温調整や必要な方には音楽を掛けたりと安眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため配薬前にダブルチェックと服薬介助時には名前・日付の声だし確認を行っている。服薬内容の理解と体調の把握をし意思との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて役割を持って頂き、家事手伝いを行って頂くなど、日々の生活の活性化への支援を行っている。また散歩やドリル・レクリエーションや月ごとの行事を、楽しんで参加して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、買い物や外食も計画している。入居者の希望に応じて、月命日の墓参りなど、職員と共に実施している	買い物外出、日常の散歩、なじみの場所への訪問等、機会を見つけては外出するようにしている。日常的に軽い体操を行うなど、体を動かす機会作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より預かり金としてお預かりしている方の方は事務所で管理している。使用に関しては、ご家族様に連絡承諾の上、購入など支援している。個人での所持を希望の方は所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方には充電できているか確認させて頂いたり、手紙を書かれた時はポストへ投函させて頂いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう清潔保持に努め、季節を感じて頂けるように飾り物を入居者様と一緒に作り飾っている。水槽に魚を飼い育てたり、施設の周りには季節の花を飾ったりしている。トイレなども分かり易く表示をしている	全体的に明るく、広く余裕のある内部のレイアウトになっている。天気の良い日にはベランダへ出て歌を唄うなど入居者同士のなじみの関係作りも行っている。居室やトイレの表示も判りやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士の座席の配置や、一人一人に合わせた居場所作りに配慮している。くつろぎコーナーでは、外の景色も見え、ゆっくりと時間を過ごして頂ける空間となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様やご家族様の写真や馴染みの物を置いて頂いている。仏壇や家具なども、お持ち頂いている。	居室は明るく清潔で、清掃が行き届いている。なじみの家具や仏壇、写真等も持ち込まれて、利用者が落ち着いて過ごせるような居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど分かり易いように、目印をつけるなど工夫をしている。リビングのテーブルには杖入れを設置し、杖利用の入居者様に使用頂いている。		